

天満屋倉敷店 2019年11月の画廊予定

◎4階美術画廊

会 期	内 容
10/30(水)～11/4(月・振)	<p>ガラスと陶芸の二人展 —徳永隆治・内村幹雄—</p> <p>山口県宇部市で手吹きガラスを制作されている徳永隆治先生と萩市で萩焼を制作されている内村幹雄先生の二人展です。徳永先生は数々のクラフト展で入賞され、展覧会を中心に活躍中です。また、内村先生は萩市文化功労賞を受賞され、萩焼の伝統工芸士に認定されており、萩焼の温もりが感じられる普段使いの器にこだわって作陶されています。今展ではお二人の、使いやすさの中にもおしゃれなデザインがほどこされている毎日使っていただける器を中心に約100点を出品いたします。</p>
11/6(水)～11/11(月)	<p>大社敏雄・松田留美 父娘展</p> <p>倉敷美術協会前会長で、日展系美術団体「日洋会」の委員としても活躍されている洋画家大社敏雄先生の作品展です。今回は同じ日洋会の会友として活躍されている松田留美先生との父娘展です。日洋展の出品作に加え、地元岡山や近県の風景、静物や花を描いた油彩作品あわせて約40点の出品です。</p>
11/13(水)～11/18(月)	<p>作陶40周年記念 備前 菅形基道 作陶展</p> <p>大学を卒業後、会社務めの日々から一変、陶芸の道に入られた菅形基道先生。東京を皮切りに全国で精力的に作品発表を続け、県展岡山市長賞や新日本美術展・焼き締め陶公募展入選など作家としての実績も積み重ねて来られました。2011年に備前焼伝統工芸士に認定され、現在は幼稚園や小中学校などに出向いて陶芸体験講座を開くなど備前焼の普及や技術の継承、若手の育成に力をそそいでおられます。今展では、作陶40周年を記念して壺、花器、酒器、食器など約100点を一堂に展覧いたします。</p>
11/20(水)～11/25(月)	<p>木口敬三 心象風景展</p> <p>多彩な技法と高い精神性で、独自の抽象表現の世界を展開する木口敬三先生の作品展です。武蔵野美術大学を首席で卒業後、フランス政府私費留学試験に合格しバリエに留学。帰国後は倉敷を拠点に制作活動を行い、数々の国際版画展に入賞・入選されています。瞬間のきらめきやその光と影を捉えた魅力あふれる銅版画や、アクリル・色鉛筆・水彩・パステルなどを用いたミクストメディアの新作約30点を出品いたします。</p>
11/27(水)～12/2(月)	<p>備前 藤原章 作陶展 —10年の歩み—</p> <p>和気町に陶房を構える若手備前焼作家藤原章先生の倉敷天満屋初個展です。主に窯場の裏山から採れる山土を使い、自らが築いた登り窯で焼成しています。焼成中に窯の中から器を引出し急冷する「引き出し黒」の手法で焼いた黒い肌に薪や粘土から生じる自然釉がかかり野趣あふれる風合いと造形的な形が特徴です。今展では、花器、壺、酒器、食器など約100点を一堂に展覧いたします。</p>

営業時間 毎日午後6時閉場

作成：美術画廊担当 国光

※11/5・12・19・26は閉廊日

いずれも会期最終日は、午後4時に閉場いたします。

※会期・タイトルは都合により変更することがあります。

お問い合わせ

天満屋倉敷店 販売計画

TEL 086-426-2205

FAX 086-426-1136